Vol 40 SUMMER

はぁとふる

Heartful 2012.8

地域の皆さまに、心（*Warm Heart*）と知識（*Cool Head*）と技術（*Beautiful Hands*）でヘルスケアサービスを提供するためのコミュニケーション誌

■特　集

～ 私らしく生きる 第2回 ～

リハビリテーションで太夫道中（たいゆうどうちゅう）を成し遂げた患者さまのインタビュー

平成23年度
島田病院手術実績のご報告

トピックス

島田病院公開医療講座を開催しました。

「看護の日」を開催しました。

「介護保険および老健の役割と連携について」勉強会を開催しました。

大阪介護支援専門員協会　羽曳野支部設立

北米視察ツアーに参加して

“Cafe”Infection Control

Japan Council for Quaity Health Care
日本医療機能評価機構

島田病院、八尾はぁとふる病院は
『病院機能評価認定病院』です。

はぁとふるグループ　医療法人（財団）永広会　社会福祉法人 はぁとふる

～私らしく生きる　第2回～
リハビリテーションで太夫道中を成し遂げた患者さまのインタビュー

ヘルスケアサービスを分類する方法は色々ありますが、病期の時期によって、予防健康増進、急性期治療、回復期ケア、生活（維持）期ケア、終末期ケア、遺族ケアなどの段階に分かれます。

はぁとふるグループでは、それぞれの時期に応じて、個人の価値観に基づく“LIFE”を尊重した統合的なケアを提供するよう心掛けています。この“LIFE”は、生物学的「生」である生命ということだけではなく、社会の中で生きる生活という意味や、生き甲斐や趣味、大切にしているものなどの個人的な人生という面も含んだ重層的な意味合いとなります。

従来の医療では、CURE（治療医学）が優先される傾向がありました。そのためにLIFEを犠牲にする場合も生まれています。つまり、手術によって命は助かったが、寝たきりになって自分の身の回りのこともできなくなったというような事例です。

しかし、昨今では、ご本人の決断により、時にはLIFEを尊重して、CUREを最優先としない選択も医療現場に受け入れられようになってきています。

こうしたChange（変化）は、言葉で述べるほど簡単でなく、ヘルスケアサービスを提供する私たちにとってChallenge（挑戦）でもあります。

重層的な意味を持ち、一つとして同じものはない“LIFE”を尊重するケアのために、ご本人の言葉に耳を傾け、理解し、ご一緒に目標を立て、プログラムを作り、進めて行くことに、喜びとともに難しさと大きな責任を感じるからです。

島田病院の目標は、「リハビリテーション機能の充実した整形外科専門施設」です。LIFEを重視するからこそ、リハビリテーションが不可欠になります。徹底した保存治療が無効の場合、ご相談の上手術を行うこともありますが、目的に向け、術後のリハビリテーションが重要なことはいうまでもありません。

※平成23年度手術実績は4ページに掲載

今回は、島原　花扇太夫（はなおおぎだいゆう）をご紹介します。脳出血後の右手右足の麻痺を克服し、ご自身の強い意志で「太夫道中」を実現されました。

服部（はっとり） 佳子（よしこ）さんインタビュー

2007年3月に脳出血で救急病院へ搬送され、右半身に麻痺が残り、搬送先の病院の医師からは、このままずっと車いす生活になるだろうと言われていました。言語障害も残り、きちんとしゃべることもできなかったですね。

私は、花扇太夫です。歩くこともままならず、しゃべることもままならない状態では、太夫でありつづけることは無理です。長い入院生活で、もうあきらめようか…と考えたこともありました。そんな中、ある入院患者さんが私を見て、「あの人くらい動けるなんてうらやましい…」といわはったんです。自分よりもっと障害の重い人もいると気付きました。「病気になるのは仕方がないけど、病人にはなるまい」と思いましたね。そこから、太夫としての活動再開に向け、懸命にリハビリしました。服を着替えるのもリハビリです。時間がかかるけど、「入院患者には、たっぷり時間あるんやから、手伝わんといて」と言ってましたね。太夫であるために必要な動作は、特殊な動きが多く、リハビリスタッフに、この職業を理解してもらうことは、大変でしたけどね。

私がこんな状態でも、すでにスケジュールが決まっている講演の日程は待ってくれません。講演ができるか不安でしたが、「ゆっくりしゃべったらいい」「ありのままの自分でいい」と言ってくれた夫の支えや後押しもあって、リハビリを一生懸命やりました。その甲斐あって、車イスではありましたが、今の私の病気のことも含めてお話しすることができました。「花扇太夫が、そんな

状態とは知らなかった」「感動しました」「同じ境遇の人の励みになります」「これからも続けてください」など、たくさんの声をかけていただけたのは、うれしかったですね。これからも「病気に負けてはいけない」、「病気を楽しむ」という私の体験をお話しすることで、少しでも同じ様な境遇にある人の支えになれれば…と思い、今後も講演は続けていきたいですね。

ある時、太夫道中をもう一度やってみないか？　と声がかかりました。太夫道中とは、着物に大きな結い髪、両方で4kg近くある三本歯の高下駄を履くので、衣裳は30kgにも及び、内八文字と独特の歩き方をし、太夫の前には、かむろと呼ばれる女童と引舟、後ろには傘持ちを連れて、ゆるりと歩くという行事です。今の私に太夫道中ができるだろうか…と悩みました。そんな時、知人を通して、島田病院の事を知ったのです。

島田病院のリハビリ室で、ご主人が付き添い重い衣裳に高下駄を履いてのリハビリ

強い意志で成し遂げられた「太夫道中」

担当　理学療法士　愛洲（あいす）　純（じゅん）

服部佳子さんは、「2ヶ月後の太夫道中をなんとか成功させたい」ということで、今年の3月末に島田理事長を頼られて、京都から島田病院へ来院されました。5年前の脳出血で、右手右足に麻痺があり、初めてお会いした時には、杖を使ってバランスをとりながらゆっくり歩かれている状況でした。

島田理事長の診察で、「筋力はあるよ。使い方をしっかり練習すれば、何とかなるやろ」という言葉に大変喜ばれていたのが印象的で、早速当日からリハビリ開始となりました。私自身、「太夫道中」がどういうものなのか、全く知識がなかったため、服部さんから独特な衣装や動作、当日の予測される環境などを詳しく教えていただきながら、リハビリを進めていきました。リハビリ開始前のことを今振り返れば、「5年も経過していれば、なかなかすぐには変化を出せないかも知れない」という先入観が頭の片隅にあったように思います。実際にはリハビリ初回から、歩き方などに改善がみられ、練習を重ねていく度に服部さんも手応えを感じられているご様子でした。そして2ヶ月後の本番に向けて、諦めや不安を全く表に出さずに、「絶対にやり遂げる」という強い想いでリハビリに取り組まれました。改めて人間の体と能力の可能性、そしてご本人の意志の強さに感動しました。

本番当日には、何とも言えない緊張した空気感の中、身体の調整と動作・補助方法などの確認をさせていただきました。最後まで、付き人の補助が必要か迷いましたが、本番では全く補助なしで、見事な道中を演じられました。

短期間ではありましたが、服部さんのすばらしい道中に立ち会えたこと、それまでの過程に関わることができたことは、私自身本当に貴重な体験でした。本番の道中直後、「やりきれた」というひとしきりの感動の後、「次は、自転車に乗りたい」という言葉が出てきました。改めて服部さんのポジティブで強力な向上心に驚かされました。

●●●

ご本人のこうなりたいという強い意思やご家族の支援がリハビリの成果に大きな影響力を持つことが示されたと感じます。

私たちはその人の“人生”をサポートをするために、何をしたいのか、どうなりたいのかを聞き取れる心とそれを実現するための知識と技術を磨き続けようと改めて決意する機会を得ることができました。

服部（はっとり） 佳子（よしこ）さん　プロフィール

- 京都生まれの京育ち
- 先代尾上菊之丞師に日舞を学び、三才で初舞台。
- 宮内庁神楽を多静子師に学ぶ。
- 人間国宝山村たか師に地唄を学ぶ。
- 華頂短期大学幼児教育科卒業。
- 幼稚園教諭を経て島原の世界に入る。

平成三年度より各分野の芸術家とのジョイントをはじめ、毎年恵まれない子供達のために、「チャリティー花扇太夫の会」を催す。太夫道中など、太夫としての活動のほかに、島原の太夫文化を残すため、各方面にて講演を行い、多くの人達に理解を得て、太夫文化の伝承に力を注いでいる。演題「太夫のひとり言」～生かされて～　では、太夫の歴史と文化をかたり、今生かされている自分の人生を語る講演活動を展開している。
現在、同志社女子大学に在籍中「太夫になった京おんな」を出版した。

連絡先
花おおぎ（京都市）ＴＥＬ　075−361−3380
携帯TEL　090−1956−8700

島原太夫（しまばらだいゆう）とは…？

太夫（たいゆう）とは、傾城（官許により、遊宴の席で接待する女性）の最高位で、正五位の位を持っています。
太夫は六条三筋町時代、四条河原町で能や舞に明け暮れ、その中から優れた傾城を能太夫、舞太夫と呼んだことが太夫の始まりとされています。太夫は舞や音曲のほかに、お茶、和歌、俳諧などの教養も身につけていました。
また太夫は帯の結び方にも特徴があり、だらりと垂らすのではなく、写真のように前側でしっかりと結びます。またその帯は漢字の「心」の形のように結ばれています。
現在でも、太夫の文化を活かして継承されています。

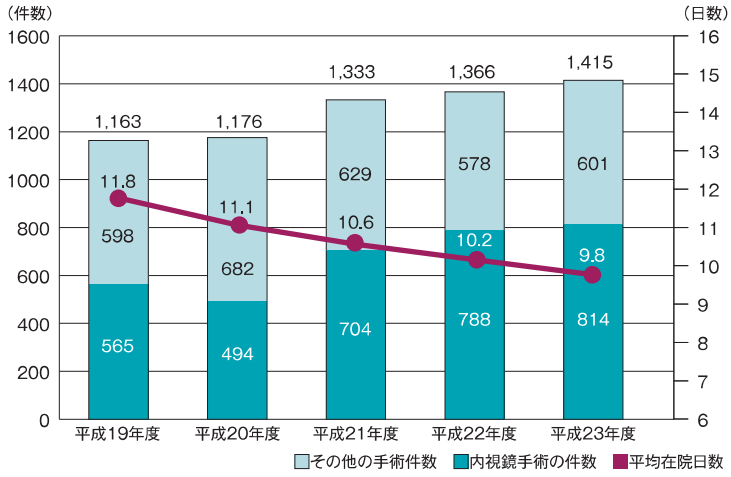
島田病院は、リハビリテーション機能の充実した整形外科専門病院です。

平成23年度 島田病院手術実績のご報告

リハビリテーションで保存的治療を行っても機能が改善しない、痛みが強くて生活に支障があるという方には、その疾患によっては、手術という選択をしていただくこともあります。手術はできるだけ、低侵襲で患者さまへの身体的な負担が少ないように可能な限り、内視鏡を使っています。また、手術の前後にも必要なリハビリテーションを行っていただくことで入院期間が短く、早期にスポーツや社会への復帰が可能になります。

専門的な手術とリハビリテーションによる治療で早期の復帰を目指したいとお考えの多くの患者さまに当院を選んでいただくことができ、平成23年度の手術件数は1,415件となりました。そのうち内視鏡手術が総手術件数の半数以上（約60%）を占めています。また平均在院日数も9.8日と短く、43床と少ない病床を最大限に活用しています。（図-1）

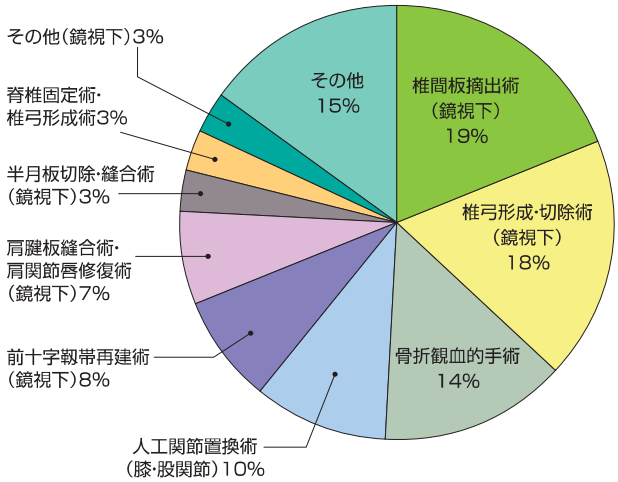
●年度毎の手術件数の推移（図-1）



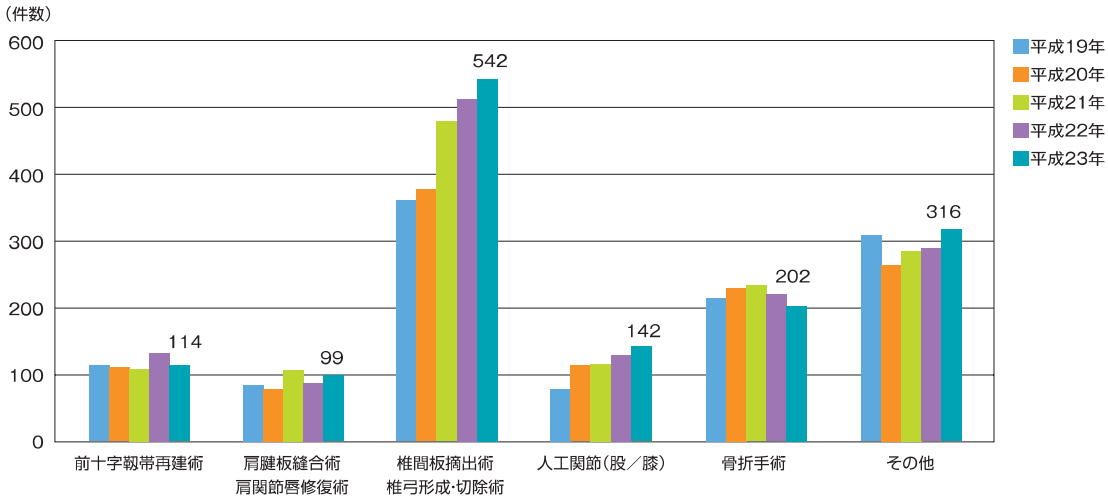
疾病別の手術件数

ここ数年の代表的な手術としては、20代から70代と幅広く、特に30代、40代に多く見られる腰椎椎間板ヘルニアの手術（椎間板摘出術）、スポーツ選手などに多い前十字靱帯損傷の手術（前十字靱帯再建術）や肩の反復性脱臼の手術（肩関節唇修復術）、中高年齢層からご高齢の方に多い、腰部脊柱管狭窄症の手術（椎弓形成・切除術）、人工膝関節や人工股関節の手術、また肩の腱板損傷の手術（肩腱板縫合術）などがあります。（図-2）（図-3）

●平成23年度手術件数の内訳（図-2）



●年度別手術件数内訳（図-3）



島田病院公開医療講座を開催しました。

4～5月にかけて、藤井寺市民会館で医師による講演を6講演、理学療法士による講演実技を6講演の公開医療講座を開催しました。医師からは、当院の整形外科診療の考え方と運動器症候群ロコモティブシンドローム（ロコモ）予防のすすめ、そして「股関節」「腰」「肩」「膝」などについての専門的な治療を紹介しました。また、理学療法士の講演実技では、参加者の皆さんに、家でもできる予防体操を実際に練習していただきました。講演終了後には個人相談の時間を設け、日頃疑問に思っていることなどの相談を受けました。「実例を挙げての講演はとても説得力があり参考になりました」「自分なりにストレッチをしていたが正しいやり方を教えてもらったので改めます」という声など多数いただきました。今後も、地域の方々に向けた公開医療講座を計画していますので、ご参加を心よりお待ちしております。

「看護の日」を開催しました。

厚生労働省が1990年に5月12日（ナイチンゲールの誕生日）を「看護の日」と制定。
看護の心を広く伝えるために、看護職と市民、行政、保健医療福祉関係者などが協力してつくりあげる『看護の祭典』として、全国で催しが行われています。

島田病院でも「もっと身体のことを知ろう」をテーマに開催しました。

多くの方にたくさんの企画に参加して頂けるように「クイズラリー用紙」を受付で配布し、出口ではクイズの解答集と記念品をお渡ししました。その効果もあり、乳がん予防に対しての「乳房触診体験コーナー」にも男性の方の参加があり、早期発見の啓蒙活動としてうれしく思いました。その他にも、体脂肪測定後にその値を基に栄養士が摂取カロリー指導を行ったり、理学療法士による肩･腰のストレッチ体操の実施や、感染管理認定看護師による正しい手洗い方法、皮膚排泄ケア認定看護師による傷の処置指導にも多くの方に参加いただきました。

当日は、東日本大震災の復興を願ってのチャリティーバザーも開催しました。バザーの物品を提供することで職員も寄付するという気持ちを持つことができたと思います。また、たくさんの方に参加して頂きました。

1日だけの開催でしたが、参加された方々の健康に対する関心の高さを伺うことができました。この日をきっかけにして、さらにご自分の身体を考える機会となり疾病予防につながることを願っています。

「介護保険および老健の役割と連携について」市立藤井寺市民病院で勉強会を開催しました。

平成24年5月12日(土)・6月9日(土)に藤井寺市民病院にお伺いしました。

藤井寺市民病院は、入院中に老健へ入所相談をしていただいたり、老健に入所されてから体調が悪化した方を受け入れていただくなど、日常的に連携している医療機関のひとつです。

平成24年4月の医療保険と介護報酬の同時改定で、これまで以上に医療と介護が連続性を持って、安心して暮らせる地域を作ることが重要であると示されています。そのような背景のなか、以前から藤井寺市民病院の看護部と連携を深める話し合いをしており、介護保険および老健の役割についての勉強会を開催することになりました。勉強会には医師や看護師、セラピストや医療相談員など、多くの専門職の方々が2日間で70人以上参加されました。

当施設からは介護保険の変化や、老健施設での医療的な受け入れ可能な状況などについて説明しました。質疑応答では「費用はどれくらいなのか」「医療の提供はどこまでできるのか」「オムツは持ち込んだら良いのか」などの具体的な質問がありました。勉強会の最後には、「病院から直接自宅に帰るという方法だけでなく、老健を利用して、在宅サービスの準備をしてから安心して自宅へ帰る方法もあることがよく分かりました」などの声もあり、介護保険や老健について知っていただく良い機会になったと感じました。私たちは今後、医療についての学習も含め、継続して交流していきたいと考えています。

ご協力いただいた市立藤井寺市民病院の方々、ありがとうございました。

【老健悠々亭の取り組みのご紹介】

●入所では、認知症の方への対応や看取りも行いながら、4月から「在宅復帰・在宅支援強化型施設」の取り組みをしています。急性期病院・回復期病院から治療終了後早期に受け入れをし、ご本人に合わせた個別リハビリ・生活リハビリを実施することで、これまで以上に在宅※復帰を支援しています。※在宅とは：自宅・有料老人ホームなど福祉施設（特養を除く）

●通所リハビリテーションでは、4月から1～2時間の短時間リハビリにも取り組んでいます。病院に入院中や外来での医療のリハビリから、介護のリハビリにスムーズに移行していただくことができます。介護保険のケアプランに基づいてのサービスなので、毎週決まった曜日の決まった時間に待ち時間なくリハビリを受けることができます。また、送迎サービス（送迎範囲あり）のご利用もしていただけます。

大阪介護支援専門員協会　羽曳野支部設立

5月30日(水)大阪介護支援専門員協会羽曳野支部設立総会を羽曳野市役所で開催しました。

大阪介護支援専門員協会は、介護支援専門員の専門性を高め、資質の向上と府民の保健・医療・福祉の増進に寄与することを目的とした職能団体です。

このたび羽曳野地区の支部設立にあたって、悠々亭が事務局として活動することになりました。

今後は登録会員とともに、介護支援専門員の資質向上を目的とした研修会の開催や意見交換会などを行っていきます。

羽曳野市の保健・医療連携強化と、施設と居宅の途切れない介護サービスの連動で、『地域高齢者がイキイキと暮らせるように』を目的とし、ご利用者と介護支援専門員が『一生一緒に』の思いの元、より良い介護サービスの提供が図れるよう努力していきたいと考えています。

介護支援専門員

要介護者やご家族などからの相談に応じたり、居宅サービス計画(ケアプラン)を作成し、他の介護サービス事業者との連絡、調整等を行う者。通称ケアマネジャー。

北米視察ツアーに参加して

― 社会医療研究所主催 ―

参加者／島田理事長　山本財務企画課長　島田QMCセンター長

アメリカのクリーブランドにある病院やホスピスを視察してきました。施設の広さや機材の種類など、いろいろと目を見張るものはたくさんありましたが、何よりも記憶に残ったのが、職種の多さです。理学療法士にしても、PT・PTアシスタント・PTエイド、さらに専門分野と分かれていたりします。アメリカのそんな制度が、機能分化・専門特化につながり、良い循環を生んでいるのではと考えます。

では、日本にアメリカの細分化された職種をそのまま持ってきて上手くいくかというと、しっくり来ないように思います。職種ごとに“してよいこと”“すべきこと”の役割を区切りすぎると、それがそのまま壁になってしまい、循環不全を起こすように思うのです。それではチームとは言えません。日本では、今の専門職種が集まり、メンバー全員が専門的な知識や技術をフル活用し、“自分”が“人”としてできる最大限を発揮する。まず、それを徹底する必要があるのではないでしょうか。

そんなチーム医療が「はぁとふるグループ」で実現できるよう、頑張ろうと改めて感じることができたツアーでした。

文責:島田センター長

PT：理学療法士(Physical Therapistの略)

はぁとふるグループ 使命

私たちは、
良質のヘルスケアサービスを
効率よく地域の方々に
提供し続けます

はぁとふるグループ 理念

その人がその人らしく
自分の人生を全うすることを

知識 Cool Head
心 Warm Heart
技術 Beautiful Hands

で支援します

はぁとふるグループの基本方針

1.「確かな知識と技術」を追求します

2.「心に届く」を追求します

3.「安全」を追求します

4.「信頼でつながるチーム」を追求します

Cafe Infection Control

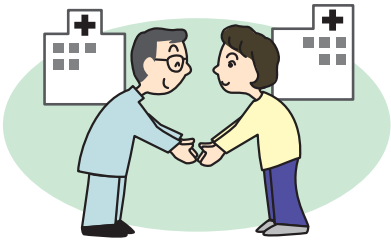
感染管理認定看護師がお届けする感染対策情報

法人本部　感染･安全管理担当
感染管理認定看護師　森下 幸子

感染対策は院内から地域へ

4月の診療報酬改訂により感染対策についてある基準を満たした場合、加算をいただけることになりました。
この基準は、自分の病院だけで一生懸命感染対策を行うだけでなく、地域の病院と連携し、感染対策を進めていかなければならないものです。

いくつもの医療機関同士が互いに評価し、情報を共有することで地域全体の感染対策が推進されます。そして、同時に患者さん達が安心して医療を受けることができる環境を提供することができます。



どのような基準なのか、ご紹介いたします。

- 感染対策の一定の研修を受けた者が専従（感染対策の仕事だけに専念する）となり、医師、看護師、検査技師、薬剤師の4職種がチームとして感染対策活動を実践している施設は加算1を申請します。
- 専従者はいなくとも4職種がチームとして感染対策活動を実践している施設は加算2を申請します。
- 加算1の施設は、年に4回、加算2の施設とカンファレンスを開催し相談窓口としての役割も担います。その他にも、加算1同士が相互に決められたチェックリストを用いて感染対策活動を評価する連携加算も新設されました。

これらを機会に、南河内医療圏においても、複数の医療機関と感染対策を進める基盤が整いました。詳細は、島田病院玄関に掲示しておりますので、ぜひご確認下さい。

はぁとふる グループ

●医療法人（財団）永広会

島田病院　072-953-1001
Eudynamics　はびきのヴィゴラス　072-953-1007
介護老人保健施設　悠々亭　072-953-1002
在宅介護支援センター　悠々亭　072-953-1003
介護サービスセンター　ゆうゆう亭　072-953-5514
〒583-0875　大阪府羽曳野市樫山100-1

ヘルパーステーション　悠々亭　072-953-1062
訪問看護ステーション　ハートパークはびきの　072-953-1004
〒583-0883　大阪府羽曳野市向野3-96-7

八尾はぁとふる病院　072-999-0725
〒581-0818　大阪府八尾市美園町2-18-1
介護サービスセンター　はぁとふる　072-999-8126
〒581-0815　大阪府八尾市宮町2-10-22

●社会福祉法人　はぁとふる

高齢者生活福祉センター　ゆうゆうハウス　072-931-1616
〒583-0875　大阪府羽曳野市樫山96-10

はぁとふる Vol.40 2012年8月　●年4回発行　●発行･編集/はぁとふる編集部　〒583-0875 大阪府羽曳野市樫山100-1　島田病院　地域連携課
ホームページをぜひご覧ください。 http://www.heartful-health.or.jp　072-953-1001（代表）